

ツールで収集したソフトウエアインベントリの活用方法について ~株式会社 日立情報システムズ 自社内運用事例のご紹介~



株式会社 日立情報システムズ 事業企画開発本部 情報インフラ開発センタ センタ長 吉澤 満



2. ライセンス管理の必要性

❷ 法的リスク回避

【違法コピーのリスク」

(民事)使用差し止め請求による業務停滞、賠償金請求 (刑事)法人業務内での著作権侵害は、法人に対し1億円以下の罰金 企業の社会的信用失墜

- ソフトウェア購入コスト削減 過剰な購入を防止
- 古いソフトの発見、更新による業務効率向上 業務効率の悪いソフトから効率の良いものへ変更



3. License Guard開発の背景と目的

3.1 背景

- インベントリ収集ツール(SMSなど)の限界
 - インベントリ収集ツールでできる事
 - PCのソフトインベントリ情報(exeの属性)の自動収集
 - インストールソフトの把握(QNDPlus等)
 - ただしMS Officeなど種類は僅か
 - 所有ライセンス総数を別途入力、インストールソフト数と比較
 - 総数管理には有効
 - できない事
 - 部署毎の管理
 - Upgrade管理、Downgrade使用の考慮、CAL管理
 - 所有ライセンスの個別管理
 - セカンダリ使用の把握
 - Etc.

3 License Guard開発の背景と目的 3,2 目的

- 目的
 - ライセンス不正利用の防止
 - PC・ソフトの所有状況、利用状況の把握
 - TCO削減
- 目標
 - 部署毎管理が容易
 - 組織変更、人事異動へ容易に対応可能
 - 社員組織情報の自動反映
 - 組織間のPC移管、ライセンス移管が可能
 - PCとライセンスの紐付け
 - CAL、ユーザ固定ライセンスが管理可能
 - 利用者とライセンスの紐付け
 - Upgrade関係が管理可能
 - 購入ライセンス間のUpgrade関係の紐付け

3. License Guard開発の背景と目的 3.3 まとめ

従来

理想

管理台帳(紙、Excel等)

- ·管理項目 所有ソフトウェア 使用ソフトウェア
- ・所有、使用総数の比較
- ·部署毎に管理

精度UP



管理台帳(Excel等)

- 管理項目 所有ソフトウェア マシン
 - 使用ソフトウェア
- ・所有ソフトウェアとインストールPC・
- 利用者の紐付け管理 ·Upgrade関係の紐付け管理

不正確、工数大

- ・使用ソフトウェア調査が大変 (PC数、所有ソフト数の増加)
- ·Upgradeの記録が困難
- ・組織変更時の更新作業が大変

·PC数が多いと手作業では不可能



システム化

ライセンス管理システム (License Guard)

❷ ライセンス管理精度の向上

所有マシン、所有ライセンス、利用ユーザを一括管理 **所有ライセンスと利用PC,利用者との紐付け** Upgrade**ライセンスと**Upgrade元との紐付け

❷ 様々なライセンス体系に対応

マシン固定ライセンス、ユーザ固定ライセンスなど

❷ Webベースのシステム

クライアント専用ソフトは不要。展開が容易。 Webブラウザからインベントリ(ソフトウェア、ハードウェア情報)を収集

● 人事異動・組織変更に柔軟に対応

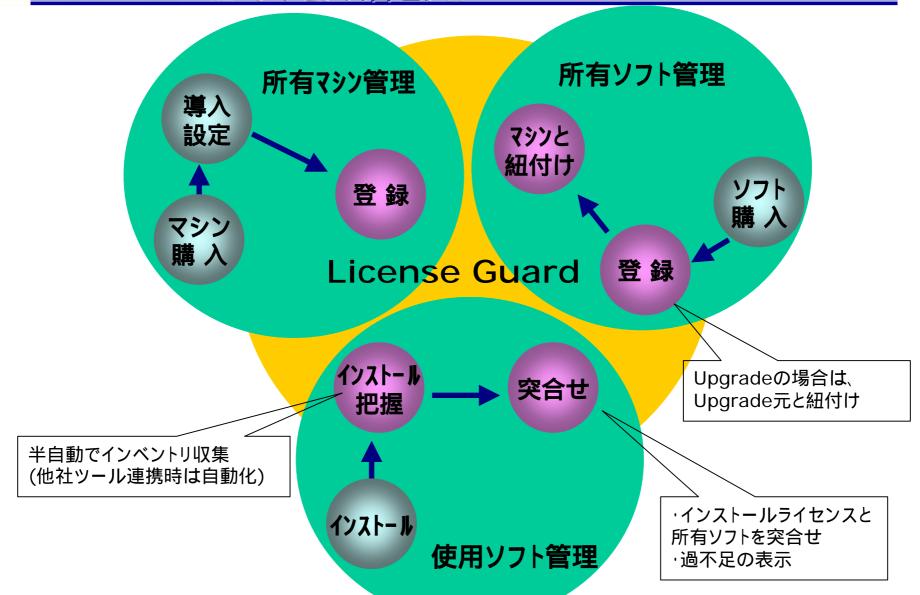
外部の人事・組織情報の取込み。マシン、ライセンスの移管処理。

● 他社管理ツールとの連携が可能

自動インベントリ収集:MS SMS2.0,JP1/NETM/DM,QNDPlusと連携

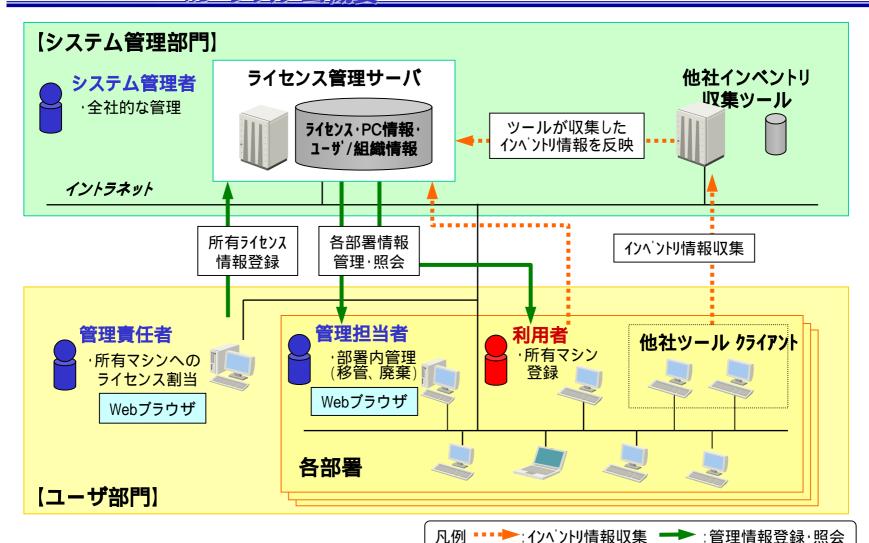


4 License Guardの概要 4.2 ライセンス管理フロー





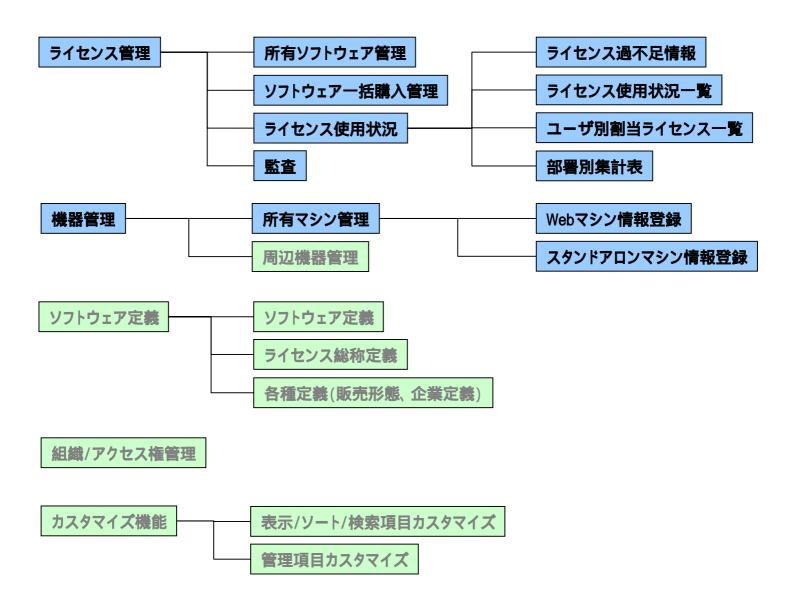
4 License Guardの概要 4.3 システム概要



【インベントリ情報】 ハードウェア情報(リソース情報、OS情報、ネットワーク情報、周辺機器情報等) インストールソフトウェア情報(名称、バージョン、レジストリ情報等)



4 License Guardの概要 4.4 機能階層





4.7 画面例

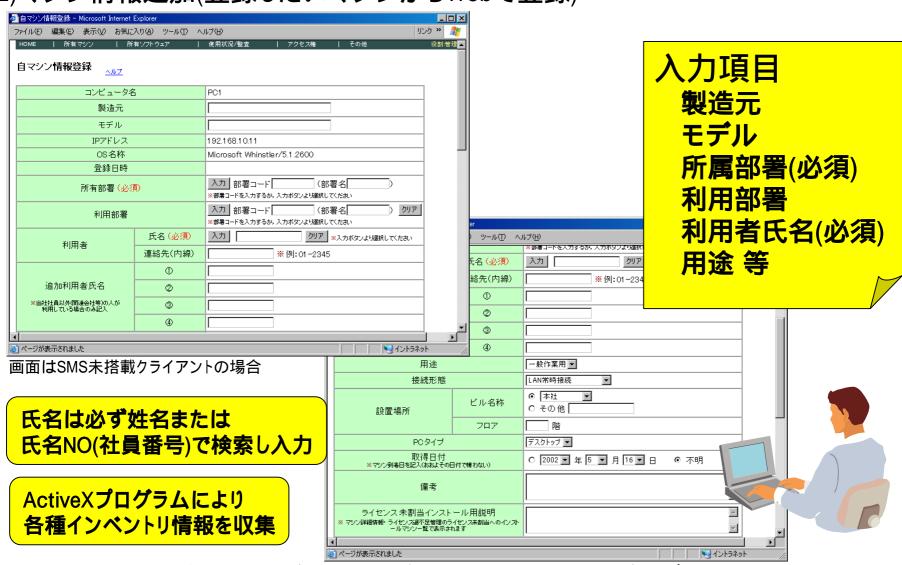
(1)所有マシン管理





4.7 画面例

(2)マシン情報追加(登録したいマシンからWebで登録)





4.7 画面例

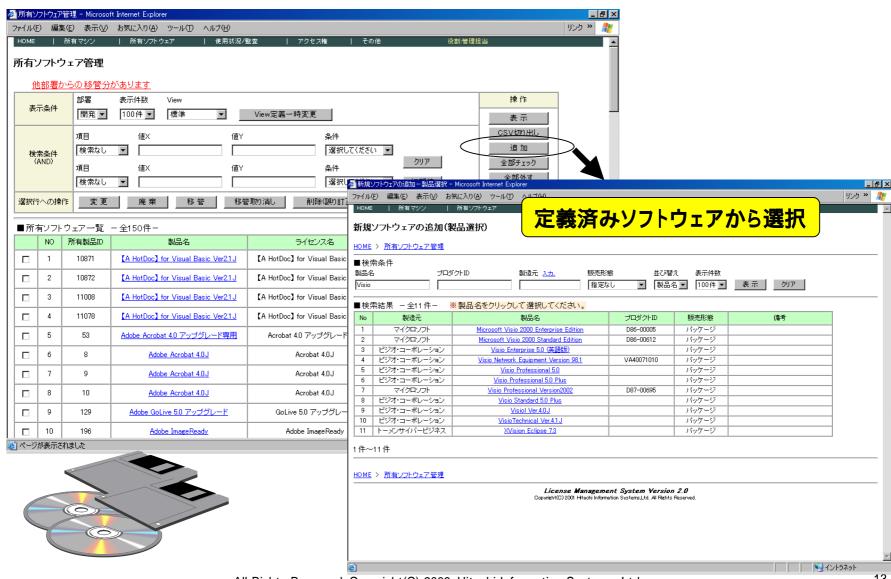
(3)所有ソフトウェア管理





4.7 画面例

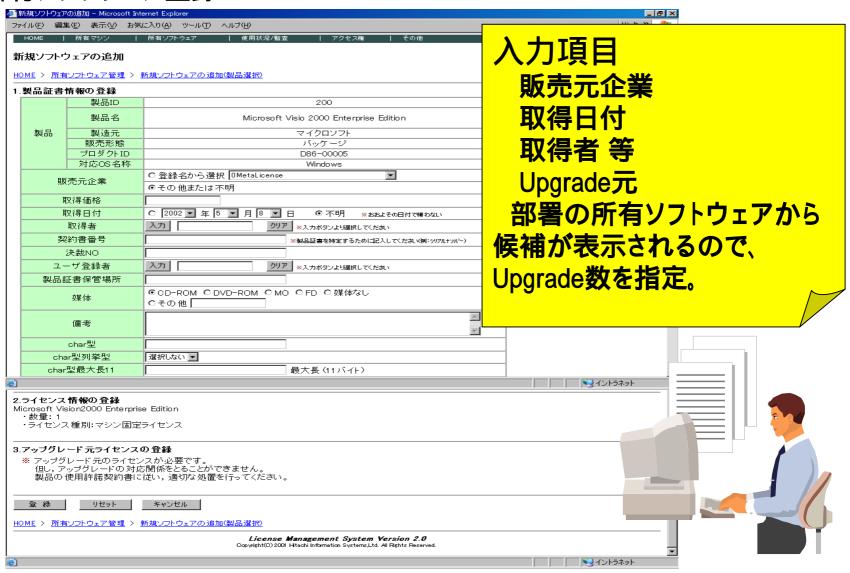
(4)所有ソフトウェア登録1---情報を購入単位で登録





4.7 画面例

(5)所有ソフトウェア登録2



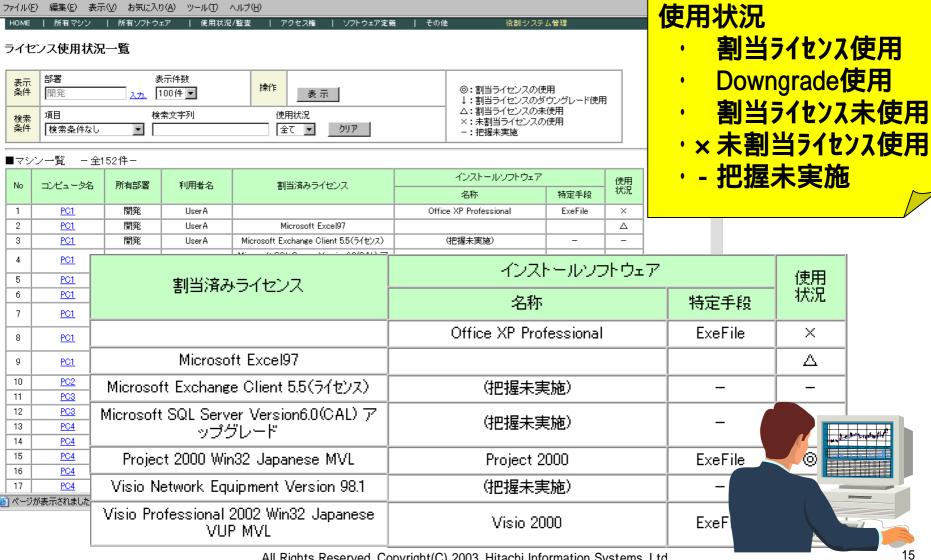


🞒 ライセンス使用状況一覧 - Microsoft Internet Explorer

. License Guardの概要

4.7 画面例

(6)ライセンス使用状況---インストールライセンスと割当ライセンスを表示





4.7 画面例

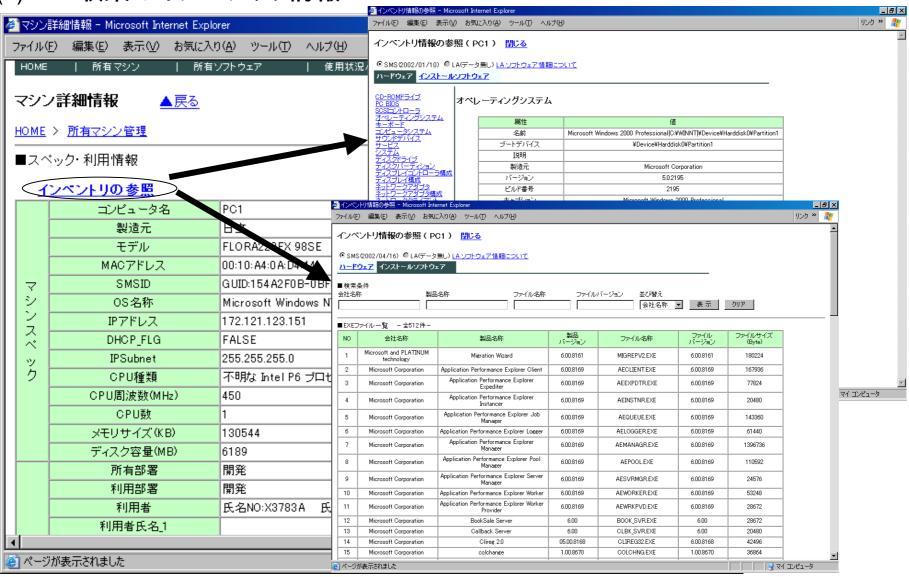
(7)ライセンス過不足管理





4.7 画面例

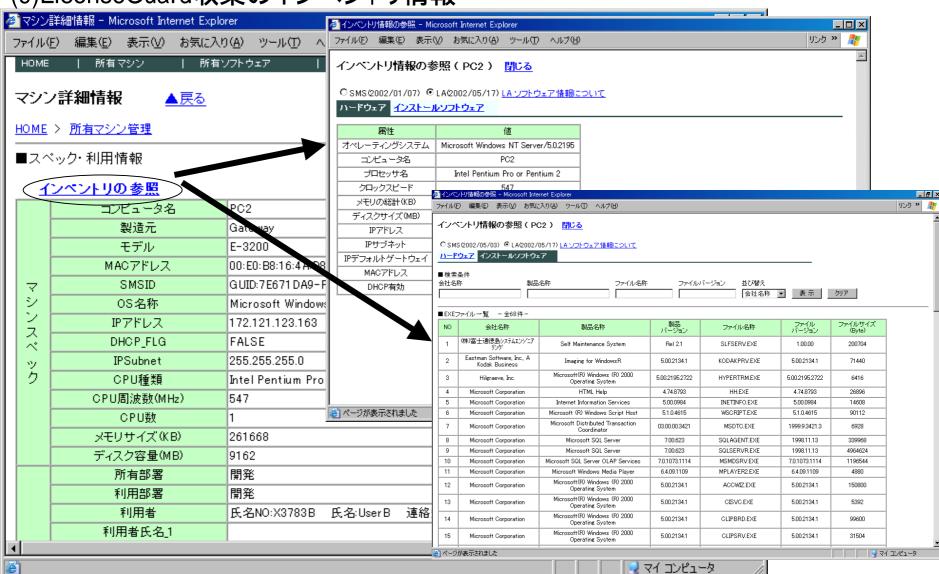
(8)SMS収集のインベントリ情報





4.7 画面例

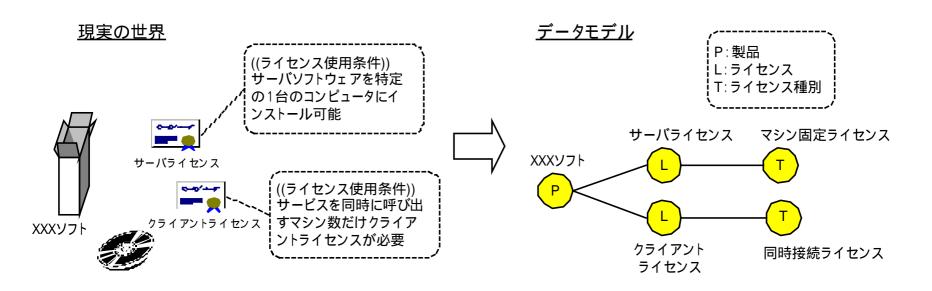
(9)LicenseGuard収集のインベントリ情報





5 . 特長的機能の紹介 5 . 1 ソフトウェア定義の内容

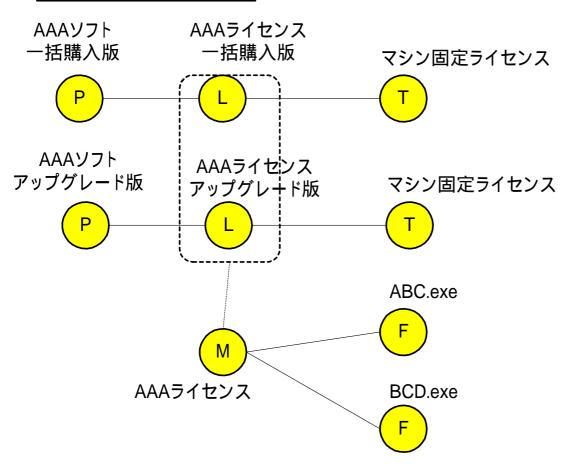
• ソフトウェア定義の概念





5 . 特長的機能の紹介 5 . 1 ソフトウェア定義の内容

ライセンス総称の概念



P:製品

L:ライセンス

T:ライセンス種別

M:ライセンス総称

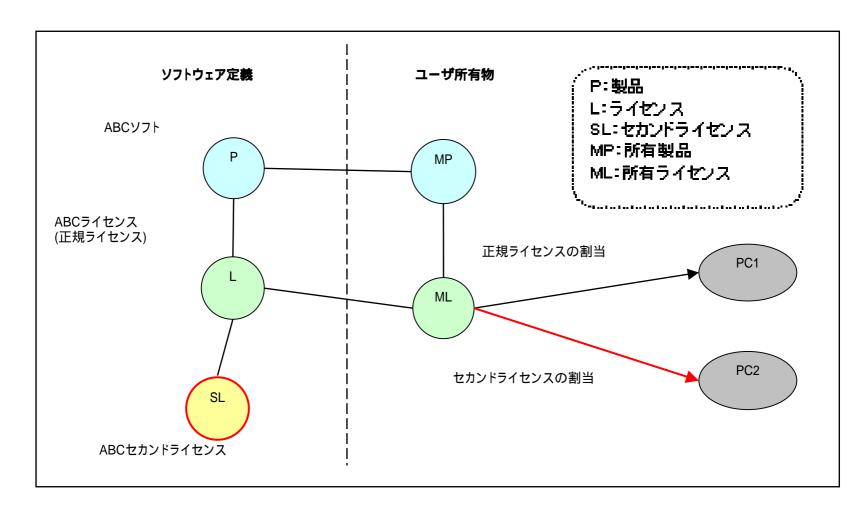
F:インストール識別情報

Upgrade関係は、ライセンス間で定義



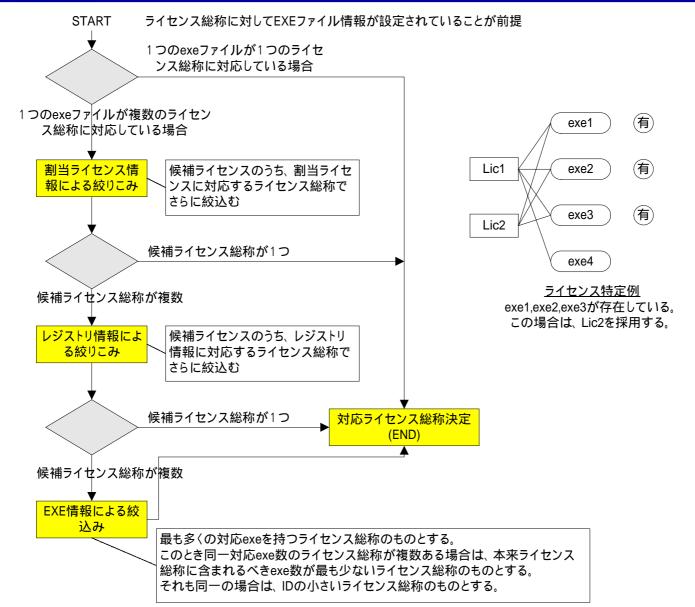
5 . 特長的機能の紹介 5 . 1 ソフトウェア定義の内容

セカンドライセンスの概念





5 . 特長的機能の紹介 5 . 2 インストールソフトの把握





5 . 特長的機能の紹介 <u>5 . 3 Downgrade**使用把握**</u>

- Downgrade使用とは
 - 所有ライセンスのバージョンではなく、下位バージョンを使用している
 - MS Officeの例
 - SelectはDowngrade使用がOK
 - パッケージUpgrade製品はOK
 - パッケージ製品はNG
- Downgrade使用の判断
 - LicenseGurad上での準備事項
 - ソフトウェア定義情報でDowngrade可能と指定
 - 所有ライセンス割当を対象マシンに設定
 - 判断方法
 - 特定されたインストールソフトが、割当ライセンスの下位バージョンにあたりかつDowngrade使用が許される場合に、Downgrade使用と判断

- 対象PC 6,700台、内SMS適用 3,300台
 - 事務用以外に開発用、テスト用が多数存在
 - PCは各部署で購入、様々な機種·OSが存在
 - -他に納品用PCや借用PCも多数
- ソフトウェアは各部署で購入
 - 例外: MS Select, ワクチンソフト
 - 標準ソフト: ワクチン Symantec NAV,MS Office
- License Guardシステム構成
 - Webサーバ 1台、DBサーバ1台

6 . 当社適用事例 6 . 2 LicenseGurad**適用後のライセンス管理**

- 管理台帳をLicense Guardに置き換え
 - 社内規定を改訂予定
- 各部署の管理作業
 - 管理体制の再整備
 - 所有マシンをシステムへ登録
 - 購入ソフトウェアをシステムへ登録
 - MS Selectは取り纏め部署が登録
 - 過不足把握と適正化
- 全社管理部署の作業
 - 新規ソフトウェアの定義情報をシステムへ登録
 - 管理状況の全社取り纏め
 - 適正化フォロー

- 対象マシンの選定
 - テスト用マシン、教育用マシンは対象外
- 運用体制の整備
 - 各部署の運用責任者は部課長
 - 各部署の運用担当者はPCに明るい人
 - 事業所のライセンス管理責任者は部長職以上
- 所有マシン登録の推進
 - 初めに登録予定台数を各部署から報告させ、この96%の値を目標としてフォロー
 - この段階ではライセンス過不足はフォローせず
- ライセンス管理の推進
 - 段階的に対象ソフトを拡大
 - システム管理者、ライセンス管理担当者の運用への慣れ
 - 問題摘出と改善
 - 一定期間後、トップダウンで適正化を指示

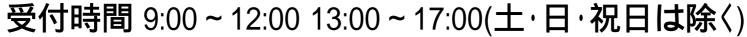
- 部署毎のフォローが可能
- ソフトウェア過不足を把握、短期間で適正化
- ライセンス管理意識の向上
- 部署毎のハード・ソフト装備状況を把握



株式会社 日立情報システムズ

〒150-8540東京都渋谷区道玄坂1-16-5

フリーダイヤル 0120-346-401



FAX番号 03-3770-5712

E-mail faindesk@hitachijoho.com

URL http://www.hitachijoho.com/solution/license/index.html





END

